

埼玉県

埼玉大学 ～“農的暮らし”にある命と文化の調和 埼玉大学有機農業研究会～

● 背景－有機農業が結ぶ地域との絆－

- ・ 研究会は、農学部がない埼玉大学において、有機農業を学ぶ場を学生と教員が地域と連携して創出するため、本城 昇教授（現名誉教授）によって2010年に設立。
- ・ 地域に伝わる行事や民舞などの体験を通じた地域の歴史・文化の継承と交流を重視し、有機農業を通じて地方国立大学としての使命である地域貢献を実践。

● 活動理念－有機農業の世界観－

- ・ 研究会では、有機農業を単なる無農薬・無化学肥料の農法ではなく、「自然と調和し、自然にも人にも優しい生命尊重の非暴力な生き方」と広く捉えている。
- ・ その捉え方を基本に、「栽培」「自然」「交流」の3つのスキル向上を活動の中心に据えている。

● 「栽培スキル」－実践と継承で磨く有機農業－

- ・ 有機農業の知識と技術を高めるため、事前計画に基づき、週2～3回、OB・OG等の協力も受けながら実践。
- ・ 大学構内や近隣のは場で、野菜・果樹・稲作・堆肥づくりなどに取り組み、培った技術は後輩へ継承。

田んぼに立つ伝統の姿がここに
早乙女姿で農の文化を体感！



有機農業は続けることで見えてくる、学びと実践のリアル



● 「自然スキル」－暮らしと身体其自然観－

- ・味噌や豆腐づくり、わら細工や草木染など、食・衣・住の実践による自然循環の理解と生活技術の習得。
- ・暦や俳句を通じた自然観の習得に加え、操体法や発声法の実践による身体感覚と健康意識の向上。

● 「交流スキル」－地域とつながる表現力の育成－

- ・岩手県奥州市を訪問し、宮澤賢治作品の語りや地元の鹿踊・剣舞の体験による地域文化の理解と表現力の向上。
- ・さいたま市ほかに広がる「見沼田んぼ」を題材にした紙芝居の創作と上演による地域交流と表現力の育成。

<見逃せないポイント：持続可能な団体運営>

- ・活動に必要な資機材費は、会費（半期2,000円）、社会人OBからの支援、学生後援会の学生自主的活動プロジェクトへの助成金の活用など多様な手段で確保。
- ・大学近隣のほ場の使用は、有機農業の実践を支える地域との交流と信頼関係が基盤となっている。

● 詳しい情報（ホームページ、Instagram）

運営は、まだ教員やOB・OGに多く頼っていますが、学生主体を目指します！

<http://saitama.eco.coocan.jp>



★ 概要 ★

プロジェクト開始：2010年 活動分野：有機農業、伝統技術、地域交流、語り継ぎ
メンバー：学生約40名（その他教員、OB・OG等） 問合せ先：saidaiyuuki@gmail.com

暮らしに息づく草木染の自然美と手仕事の温かみが伝わる



地域の生活や文化に根ざした伝統的な踊り「民舞」を体験

